

# 平成27年9月関東・東北豪雨における大崎市の水防活動

## ○概要

平成27年9月関東・東北豪雨に際して、宮城県大崎市消防団は、9月11日～12日の2日間にわたり、延べ909名が水防活動を実施。大崎市の南東部地域一帯を担当する鹿島台支団では、9月11日午前7時半頃から団員約180名が地域内の巡視を開始。午前9時前には吉田川左岸(川頭地区)における越水防止のため、団員約10名により積み土のう工(土のう約250袋)を実施。午前10時半頃、吉田川左岸(上志田地区)において漏水が発見されたため、支団長は、直ちに北上川下流河川事務所へ大型土のう対応の応援要請するとともに、地域内の巡視を行っていた約180名の団員のうち、約150名を漏水現場へ、残りの約30名を鳴瀬川の巡視へ向かわせた。漏水現場に向かった団員約150名は、吉田川左岸7箇所において月の輪工(土のう約2,000袋)を実施。大型土のう対応の要請を受けた北上川下流河川事務所による漏水対応と合わせ、堤防の決壊を未然に防いだ。

## ○活動のポイント

- ・指揮者である支団長、副支団長が昭和61年台風10号による豪雨災害を経験していたこと。
- ・2年前の水防演習において月の輪工の訓練を実施していたこと。
- ・支団長がいち早く堤防の異常等について情報を入手できる場所(市災害対策本部)に詰め、人員配置等、現場に的確な指示をしたこと。
- ・河川管理者と情報共有ができており、小規模な漏水箇所は消防団が対応、大規模な漏水箇所は河川管理者が対応という役割分担ができていたこと。



吉田川左岸：漏水箇所への月の輪工により堤防の決壊を防止。



## 市長から感謝状贈呈

吉田川左岸の決壊を防ぎ、被害を最小限に抑えた鹿島台支団に対し、大崎市長から感謝状が贈呈されました。



# ○鹿島台支団の水防活動概要

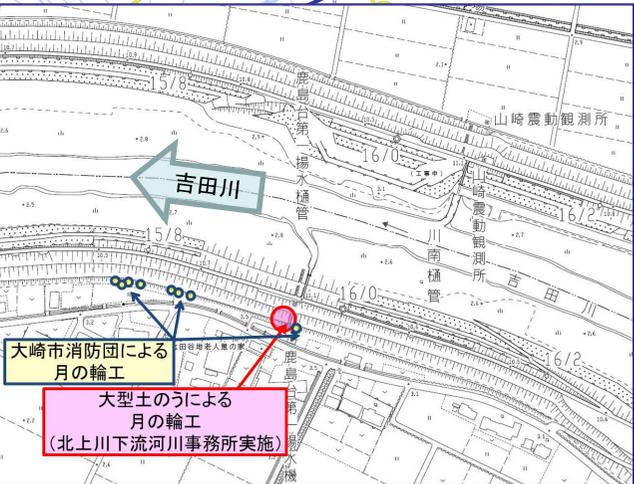
大崎市消防団鹿島台支団150名は、吉田側左岸7箇所において月の輪工法を実施。鹿島台支団長から大型土のう対応の要請を受けた北上川下流河川事務所は、大型土のうによる月の輪工を実施。消防団と河川管理者の連携により、的確な水防活動が行われた。



大崎市消防団による月の輪工



北上川下流河川事務所による大型土のうを使用した月の輪工



大崎市消防団鹿島台支団の活動